



34 沼田藩主真田信利知行宛行朱印状

万治3年(1660年)5月29日

沼田藩 5代藩主真田信利が、合瀬村(現みなかみ町永井)の口留番所の役人であった家臣の高橋四郎兵衛に対し、百石の扶持を与えた朱印状です。高橋四郎兵衛は寛文12年(1672年)に合瀬村の新田開発を行ったことで知られる人物です。合瀬村は三国街道裏街道(合瀬～入須川～大道峠～中之条)の入口にあたる村で、真田氏は口留番所を設置して、人馬の往来に目を光らせていました。

高橋巨士家文書 P9512 No.1

【34】 沼田藩主真田信利知行宛行朱印状
(P9512 高橋巨士家文書 No.1)
〔読み下し文〕

高百石扶助せしむ者也、仍って件の如し

(朱印) (真田信利)

万治三子年

五月廿九日

高橋四郎兵衛との